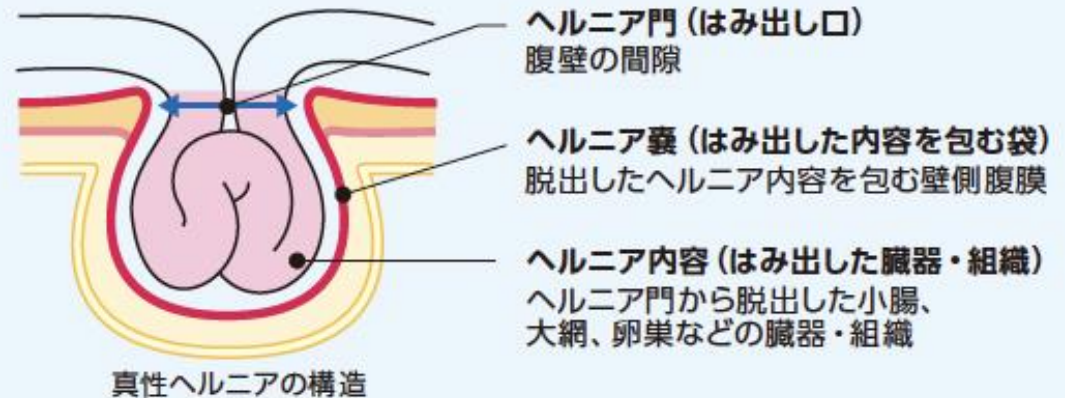
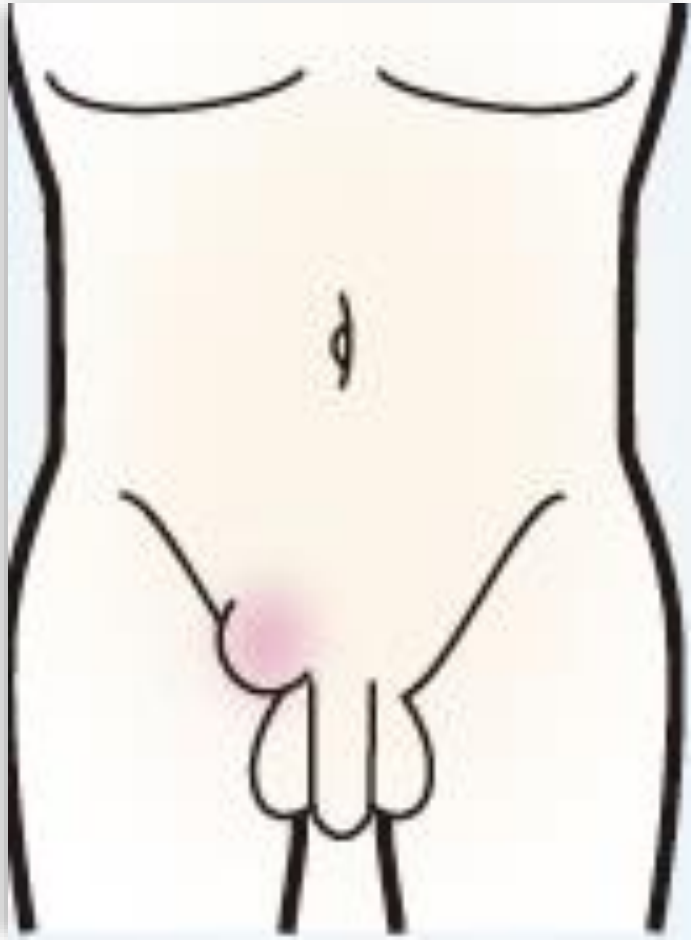


鼠径ヘルニアとは？



鼠径ヘルニアは、腸などの臓器が腹壁の隙間から飛び出す状態で、一般には「脱腸」とも呼ばれます。

なぜ起こるのか（原因）

- 鼠径部には、睾丸や子宮を引っ張るためのスジが通過するために、もともと筋肉(筋膜)に孔が空いている。
- この孔が生まれつき綺麗に閉じていないと、ヘルニアになる。（**先天性、小児**）
- 加齢による衰え、遺伝、重い物を持つ習慣など腹圧が高くなる生活習慣などにより、筋肉が緩んでお腹を支えきれなくなると、ヘルニアになる。（**後天性**）

主な症状と治療

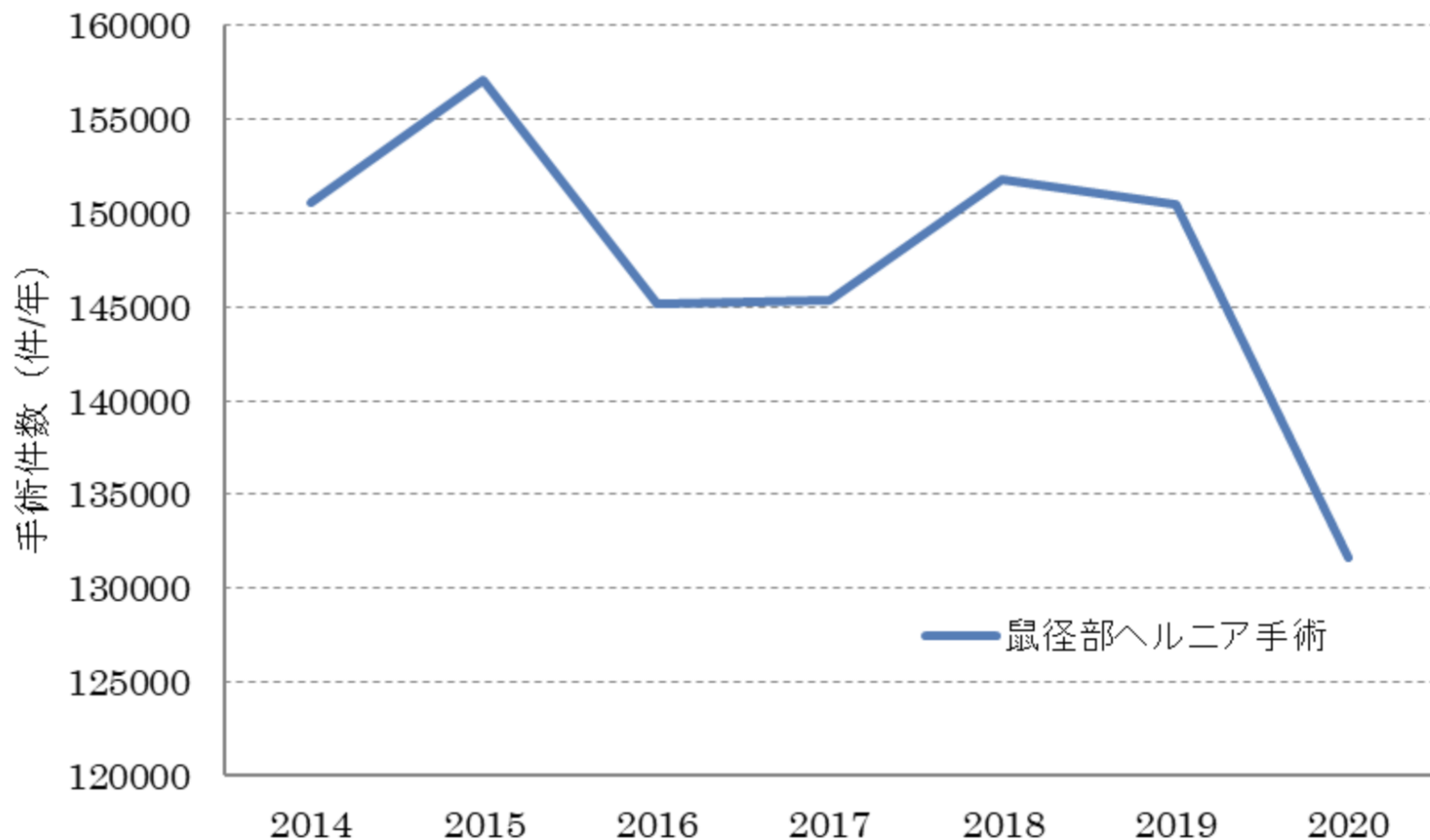
- 鼠径部が膨らみ、立った時や力んだ時に目立つ。
- 自然に、もしくは押し込むと元に戻ることもある。
- 痛みや違和感を伴うこともある。
- 進行すると、脱出した腸管がはまり込み戻らなくなる「嵌頓」という状態になり、腸管壊死や腸閉塞の危険があります



治療：原則として、保存的治療では治らず、手術が必要です。

年間13万人～14万人が鼠径ヘルニアで手術しています

鼠径部ヘルニア手術数の推移



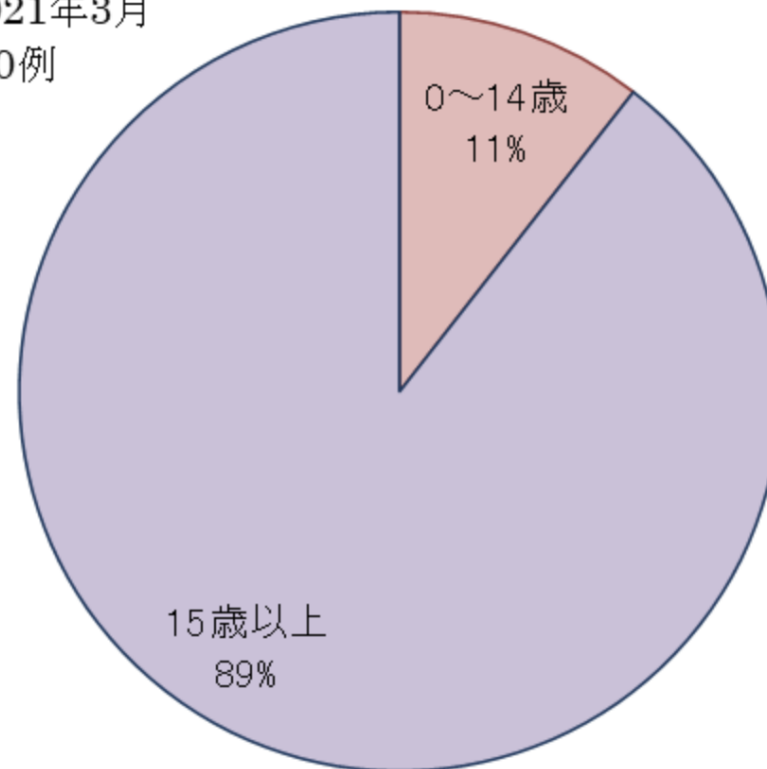
厚生労働省 第17回NDBオープンデータより作成
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177182.html>)

小児でも、成人でも、手術をしています

(一般的に小児のヘルニア手術は、小児外科が担当しています)

年代別鼠径部ヘルニア手術割合

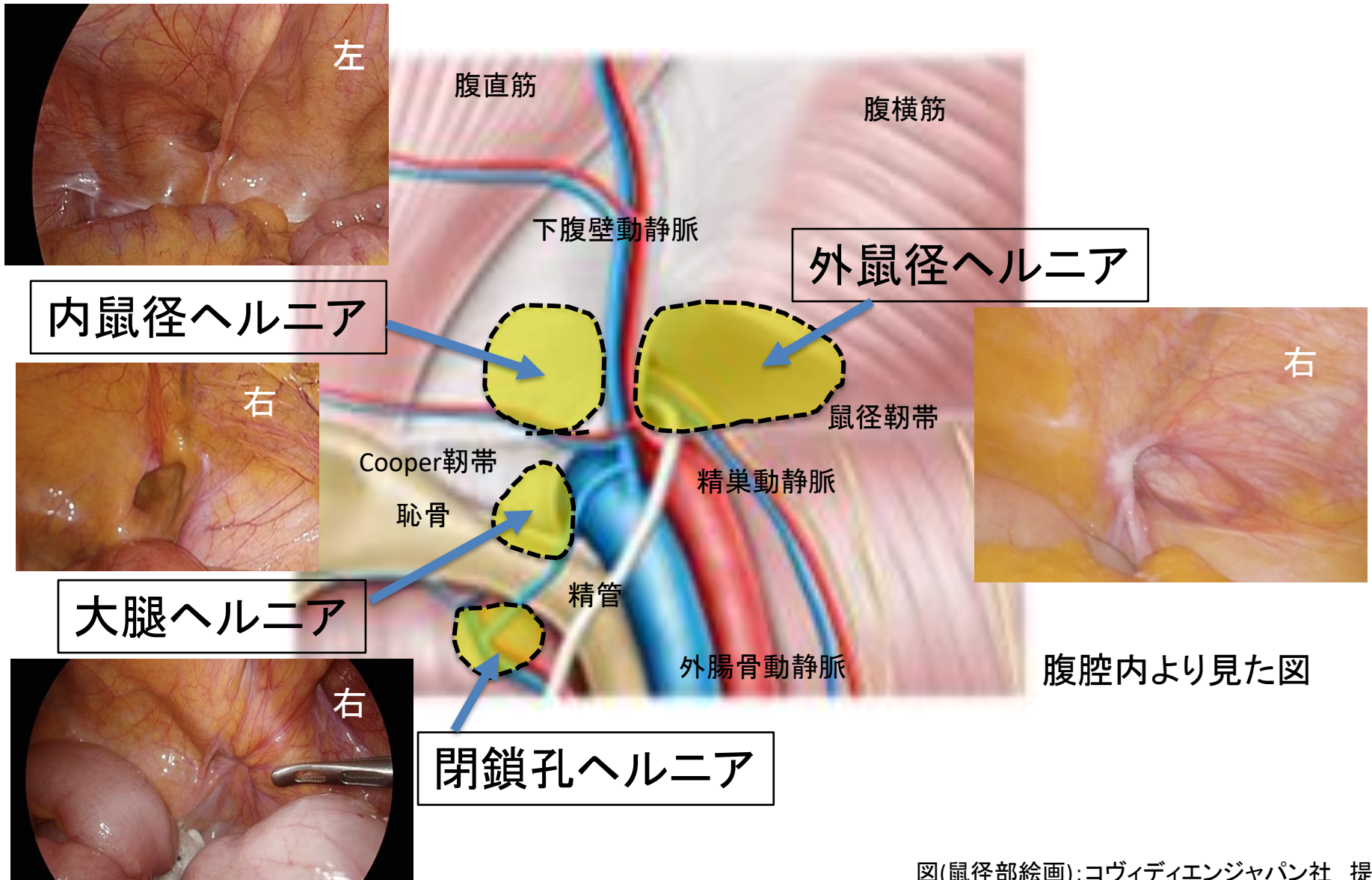
2020年4月～2021年3月
全件数=131,280例



厚生労働省 第7回NDBオープンデータより作成
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177182.html>)

鼠径部の解剖とヘルニアの種類

鼠径部はお腹と太ももの境目にあたり、筋肉や腸、血管が集まる部位です。

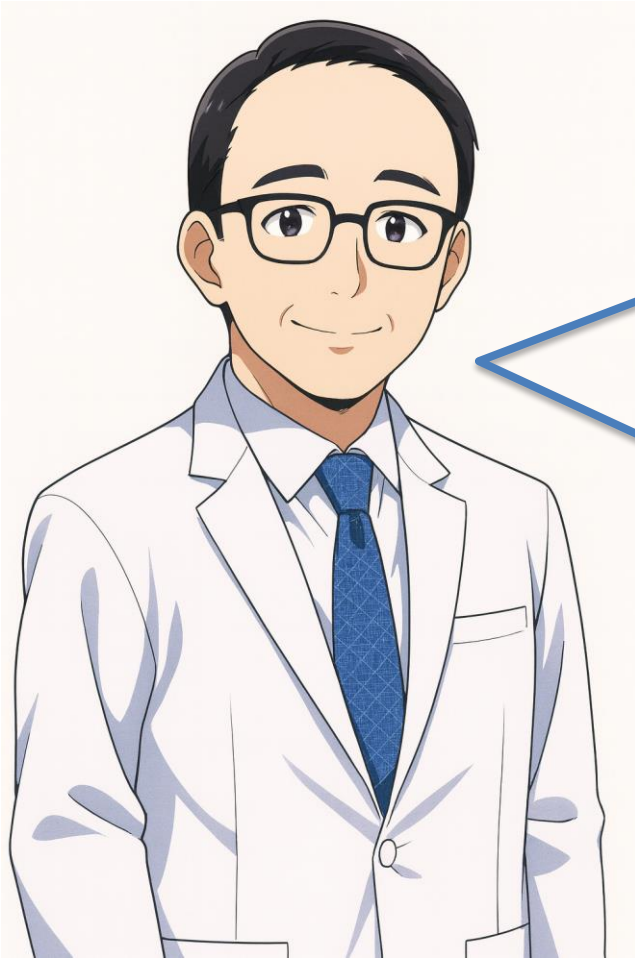


手術のリスクと合併症

- 出血、感染、再発の可能性
- 比較的安全で再発率も低い手術です



術後の生活と注意点

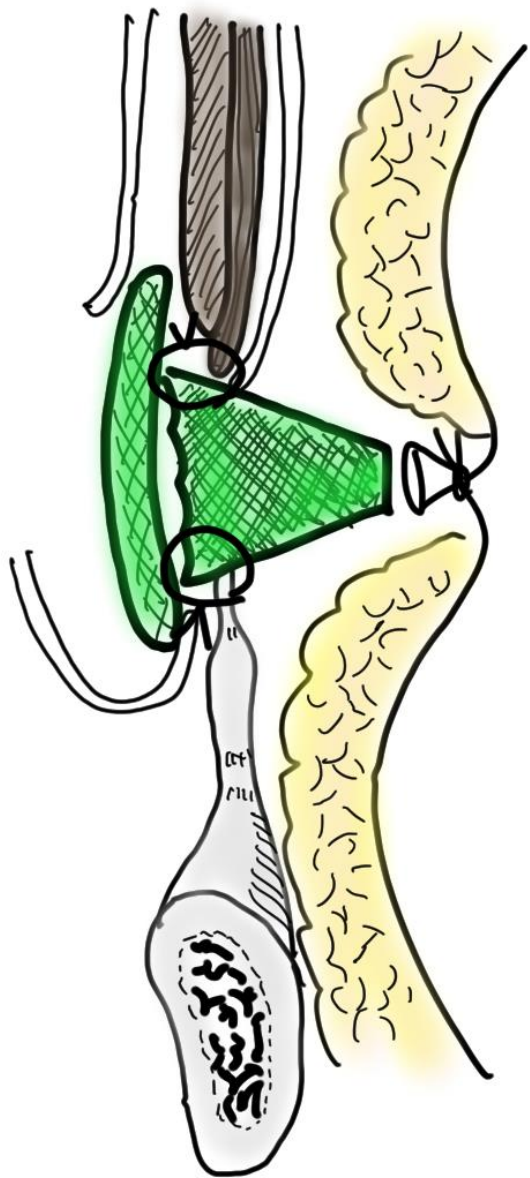


- 術後1～2週間で日常生活に復帰可能
- 重い物を持つのは1か月程度控える
- 定期的な診察が大切

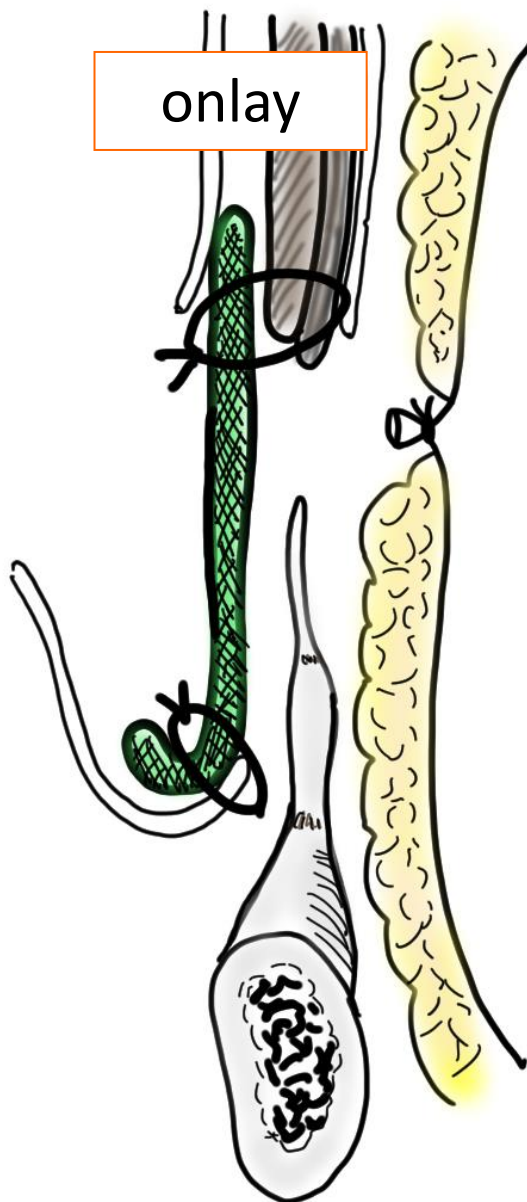
手術の種類①：従来の開腹手術

「前方アプローチ」

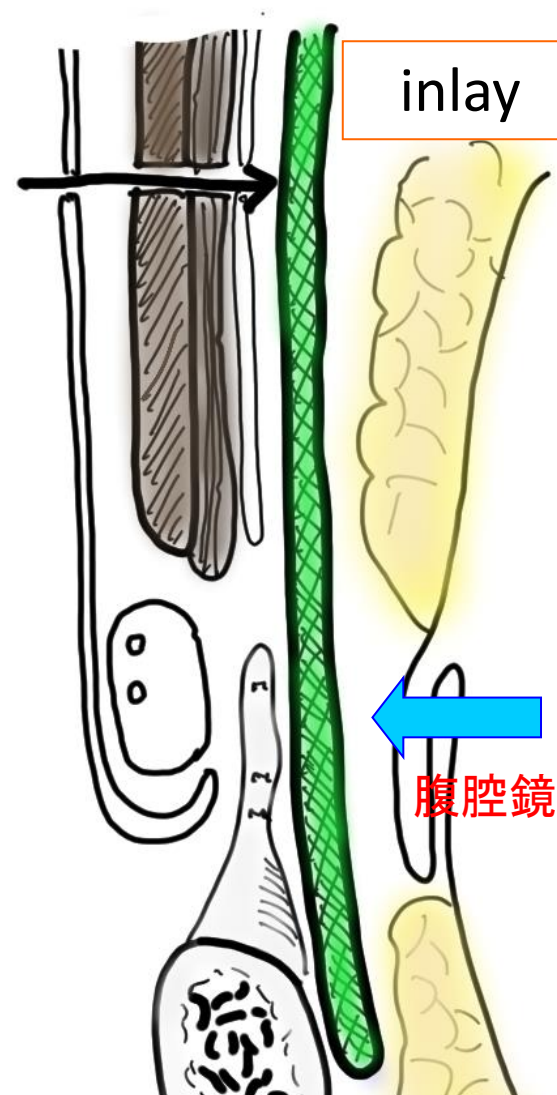
- 局所麻酔でも可能
- 術後の痛みが少ない
- 日帰りまたは1泊入院が一般的



Mesh Plug 法



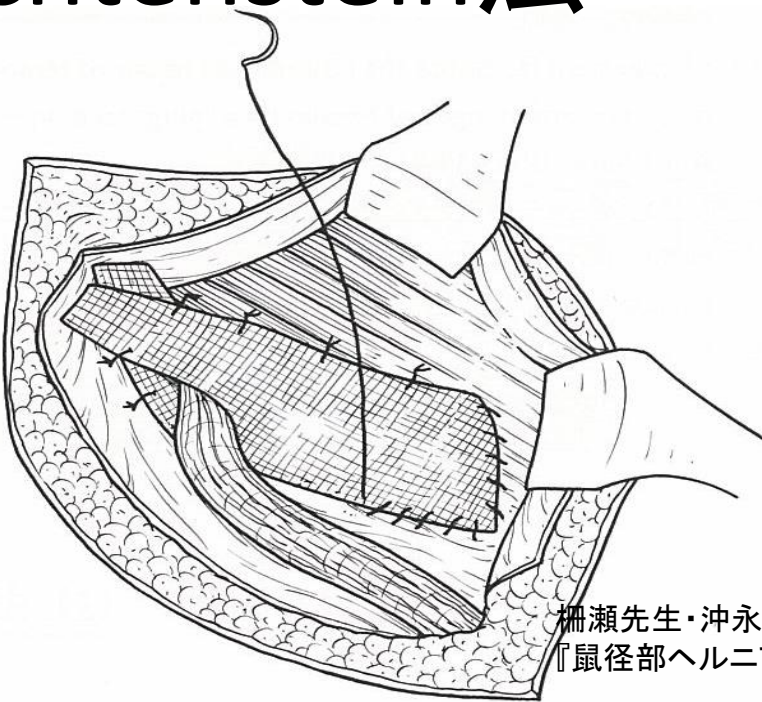
Lichtenstein 法



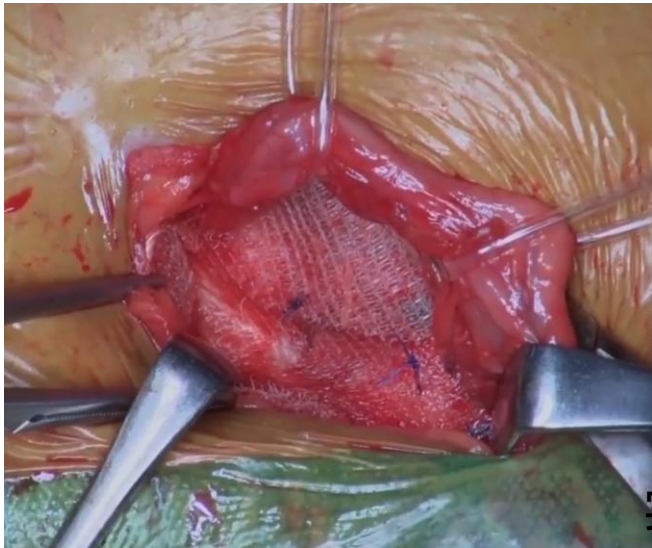
クーゲル法・DKP法

腹腔鏡

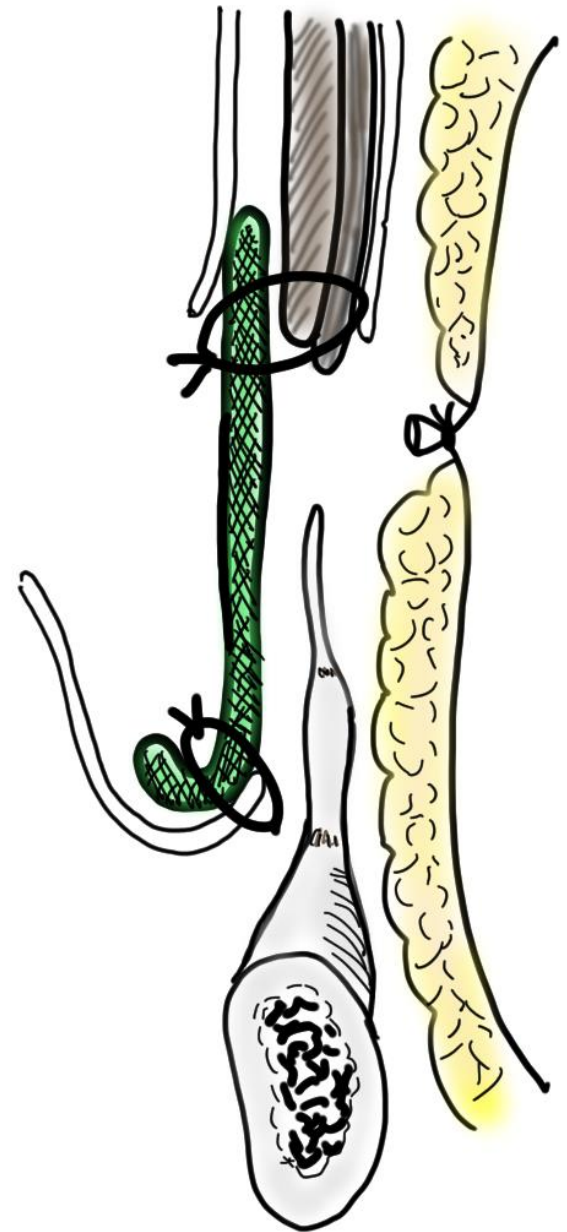
Lichtenstein法



柵瀬先生・沖永先生
『鼠径部ヘルニアの手術』より

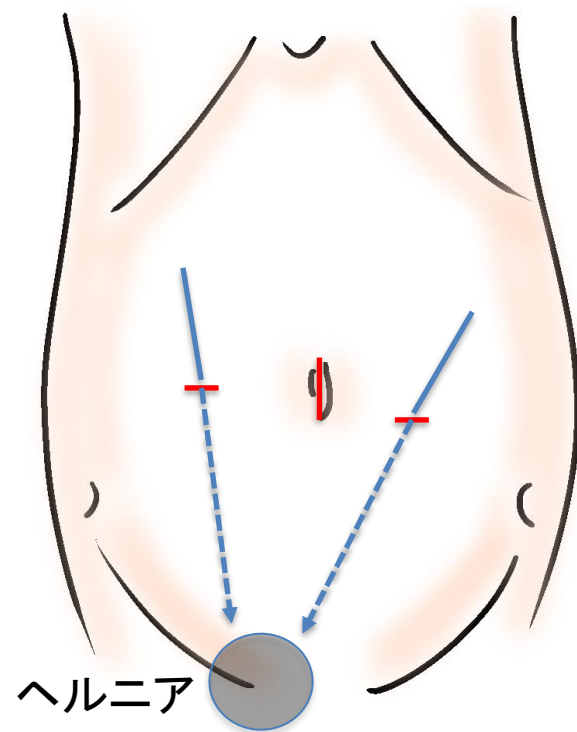


実際の修復後



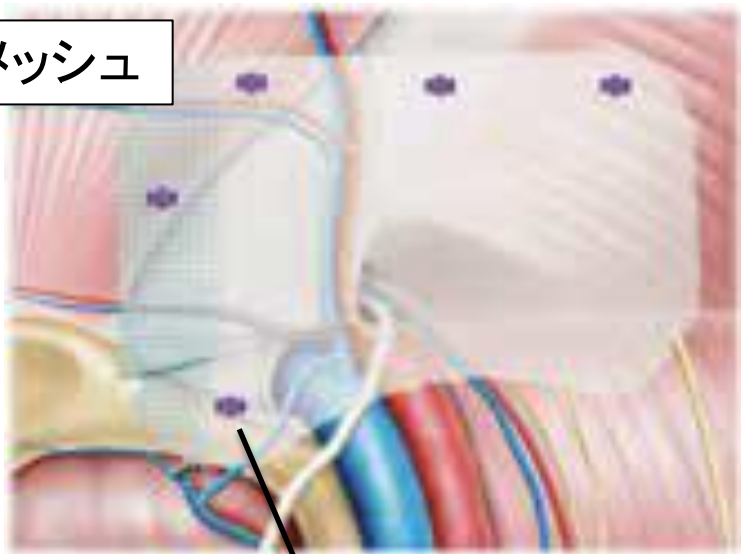
手術の種類②：腹腔鏡手術

- 小さな傷で手術が可能
- 回復が早く、見た目も目立たない
- 全身麻酔が必要

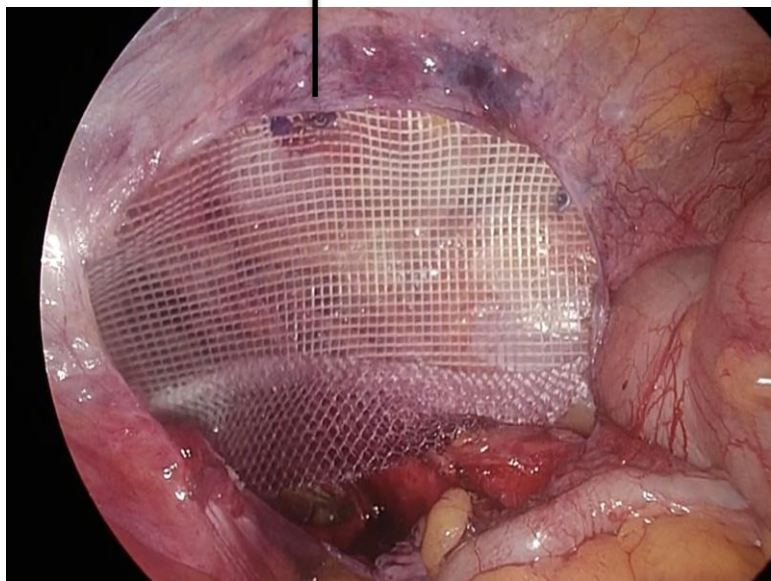


2026より、ロボット手術も保険収載されました

メッシュ

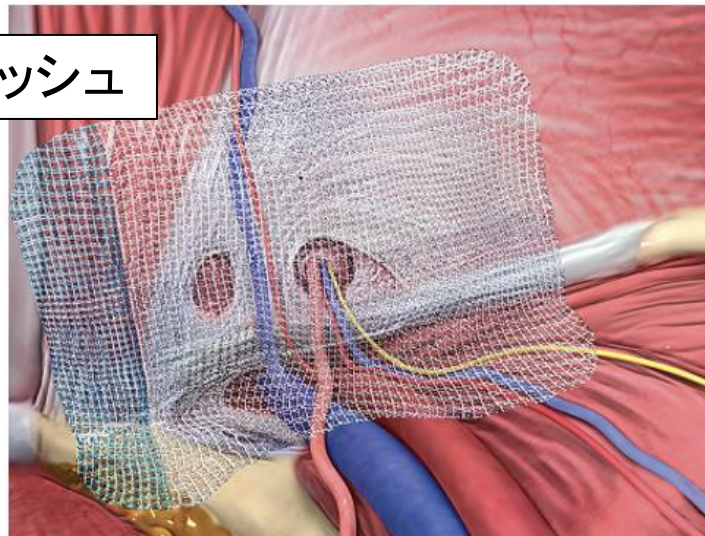


タッカー(固定具)

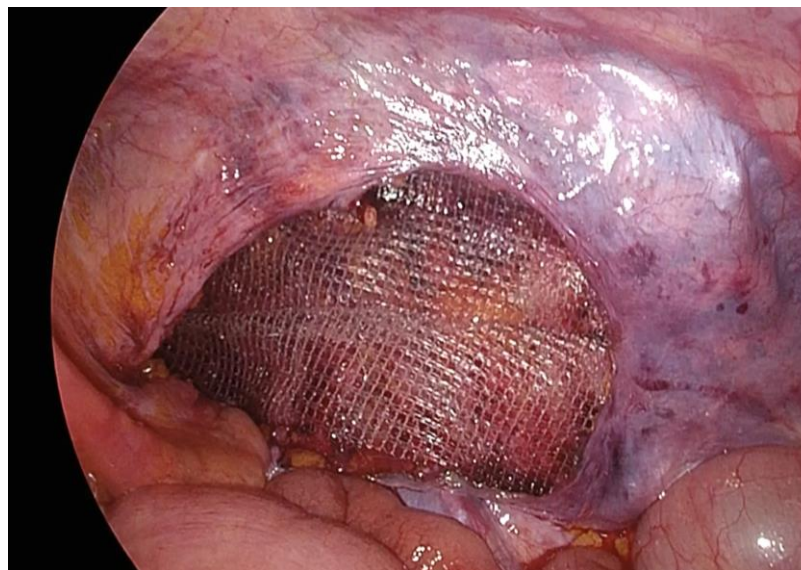


腹腔内から見ている

メッシュ



固定具を使わず、
マジックテープの仕組みでくっつくやり方もある



※この後、腹膜は縫合閉鎖します

絵:コヴィディエンジャパン社提供

まとめ・お問い合わせ

- 鼠径ヘルニアは治療で改善可能
- 早期受診が安心・安全への第一歩です
- ご相談はHPの連絡先まで